

新型ウィルス感染拡大の世界的影響

ポイント① 日韓伊などで感染拡大

新型コロナウイルスの感染は発生地中国に留まらず、次第に世界の各地に拡がり、足元では日本、韓国、イタリアなどで感染確認者数が増えています。

世界的な感染拡大により、グローバル・サプライチェーンの混乱が生じたり、人々が外出を控えることで観光、娯楽、小売、外食など、個人消費関連需要が減退することから、世界経済の鈍化懸念が強まっています。これを受けて2月24日には世界的に株価が急落し、24日が休場だった日本では25日に日経平均株価が一時前週末比4%以上下落しました。

一方、リスク回避の動きが強まって安全資産として主要国の国債が買われ、米10年国債利回りは1.4%以下と2016年7月以来の水準に低下しました。

ポイント② 中国の感染拡大ペースは鈍化

中国では労働者が旧正月の休暇から職場への復帰が遅れて経済活動に支障が出ている上、3月5日から開催予定だった全国人民代表会議（国会に相当）が延期されるなど、影響が広がっています。ただ、1日当たりの新たな感染確認者数は減少傾向にあり、感染拡大に歯止めがかかりつつあるようです。

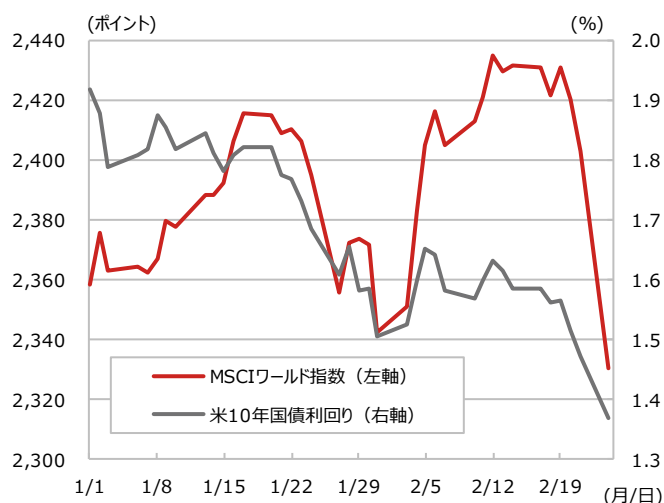
ポイント③ 株式市場への影響は短期的か

今後、米国などでも感染が拡大すれば、世界経済への影響がさらに大きくなることが懸念されます。

しかし、株式の価値は、本来、企業が生み出す長期的なキャッシュフローによって決まるものです。新型コロナウイルスの感染拡大で世界経済が短期的に大幅に鈍化しても、中国以外でも感染拡大ペースが鈍り始め、影響が長期的なものでないことが確認されれば、株価は底を打つものと考えられます。

図1：先進国株価指数と米国債券利回り

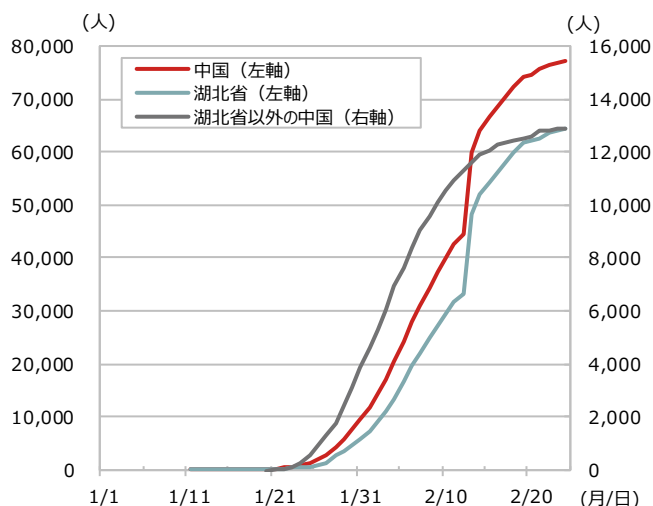
期間：2020年1月1日～2月24日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：中国の新型コロナウイルスの感染確認者数

期間：2020年1月11日～2月24日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

2月28日
3月2日

日本小売売上高(1月)
米国ISM(サプライマネジメント協会)製造業景況感
指数(2月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。